



58 (甲南町野川) はしもと けいたろう 橋本 溪太郎さん

国際交流を若い力で

12月11日に行われた、国際交流フェスタ「国ふえす」。たくさんの方が集まったこのイベントの実行委員長は19歳の大学生、橋本溪太郎さんでした。会場をインターネット中継で生放送するなど、若者らしいアイデアでフェスタを盛り上げた橋本さんにお話を伺いました。

一橋本さんが実行員になられたきっかけは 4年前に、姉妹都市のアメリカミシガン州デウィット市との交流事業に参加しました。違う国の文化に触れることで、日本の文化や習慣について改めて考えるようになりました。帰国後も国際交流協会とのつながりで、実行委員になりました。

一実行委員長になられて、このフェスタをどのように企画していこうと考えられたのですか。 この事業に関して感じていたのは、10代後半から20代の参加が少ないことでした。これから社会を担っていく若い世代にもっと来てもらいたいという思いから、名前も「国ふえす」と夏の音楽の祭典をイメージさせる親しみやすいものにしました。龍谷大学とのコラボによるインターネット中継など、若者が集まりやすいイベントなるよう企画しました。

一当日は若い世代を中心にたくさんの来場者がありました。「国ふえす」を終えたご感想は 毎年イベントの最後まで残られる方は少ないのですが、今年は全員が参加し、会場全体が一体感に包まれてとても感動的でした。市内には、たくさんの外国籍の方が生活されています。言葉や習慣、文化は国によって違いますが、今回参加されたみなさんがイベントを通じて「違い」を理解しお互いが笑顔で暮らせるまちづくりについて考えていただければ嬉しいです。

◀イベントのインターネット中継を見守る橋本さん (写真右から2人目)



多文化が集う交流の祭典 国ふえす2011

国や言葉、文化の壁を越え、多文化が集いあう地域づくりをめざして12月11日、碧水ホールで国際交流フェスタ2011(国ふえす)が開催され、多くの親子連れや外国籍市民などでにぎわいました。 会場には、日本始め、各国の食や文化を紹介するブースが約30出店、訪れた人たちは、各地の料理を食べべったり、民族衣装の着用を体験したりしながら、異文化を楽しみました。



▲多くの人で賑わう会場

祭りだよ 全員集合

信楽図書館 ボランティアコンサート

信楽図書館で12月3日、ボランティアコンサートが開催されました。

当館では、本を読む機会の提供だけにとどまらず、広く芸術に触れる機会を提供する取り組みとしてこの催しを行っています。

今回は、高校教員らで構成されたピアノ、声楽、クラリネットの演奏グループ「マノカント」の3名が出演、クラシックや童謡などを、ソプラノと楽器との美しいハーモニーを披露し、会場に訪れた音楽ファンや親子連れなどを魅了しました。



▲美しいハーモニーが響き渡った会場



元気なまちかど

第63回人権週間



▲市井会長からメッセージの伝達

甲賀人権擁護委員協議会の皆さんが、12月5日、第63回人権週間巡回キャンペーンとして、市内各地を訪問されました。 12月4日から10日までの人権週間期間中の啓発活動として、毎年行なわれており、市内の企業、福祉施設を巡回された後、最後の訪問先として市役所水口庁舎を訪問されました。 出迎えた中嶋市長に、大津地方方法務局長から、一人権擁護委員の委嘱とたすきが交付され、市井幸夫甲賀人権擁護委員協議会長からはメッセージの伝達がありました。 残念ながら今なお、人権を侵害するさまざまな事案が起っています。 みんなが幸せに暮らせるまちにするためにも、人権週間中だけでなく、日頃から人権について考え、語り合う機会をつくりましょう。

考えよう相手の気持ち 育てよう思いやりの心

3世代交流フェスタ

かふか生涯学習館で、11月27日、大原自治振興会主催による「3世代交流フェスタ」が開催され、多くの地域住民が参加しました。 地域の特色をいかした活動として行われたこの催しに、参加者は、地元大原の地理・歴史・自然に関する難問・珍問クイズ「大原検定」に挑戦したり、3世代交流を目的としたグラウンドゴルフ体験などをして楽しみました。 また、昨夏、交通安全子供自転車大会で9連覇を達成した、大原小学校自転車クラブの模範運転も披露され、地元小学生の雄姿に大きな拍手が起りました。 大人から子供まで、多くの地元住民が参加し、郷土愛を育む取り組みとして、他の地域からも注目を浴びそうです。



▲オープニング 甲賀忍玉太鼓団による演奏

出会い・ふれあい・語り合い

親子でしめ縄づくりに挑戦

多羅尾小学校親子しめ縄づくり



▲しめ縄づくりをする親子

多羅尾小学校で12月2日、親子しめ縄づくりが行われました。 多羅尾小学校PTAの親子活動の一環として毎年この時期に行なわれており、全校生徒15名が、保護者や先生と一緒に、地元老人クラブの3名の方を講師に、縄の編み方などを教わりました。

毎年参加している高学年は、手さばきよく縄を編んで仕上げていきますが、低学年は、親に手伝ってもらいながらの作業となり、保護者も講師の手さばきを真剣に見つめながら子どもたちに教えていました。

出来上がったしめ縄は家庭で正月飾りに使われます。